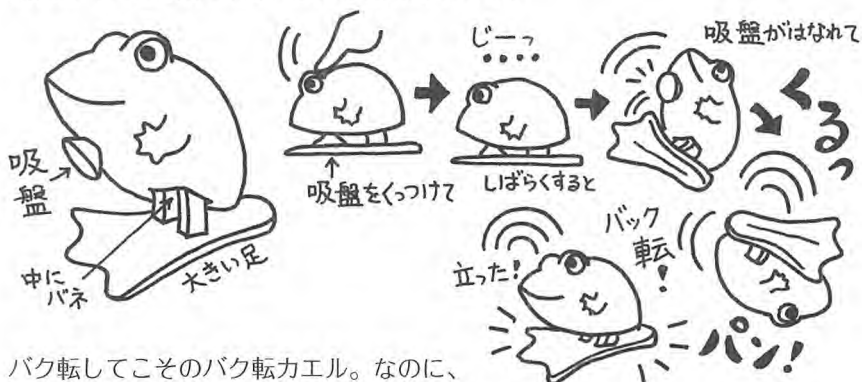


例えば「バク転カエル」。こんなおもちゃです。



バク転してこそこのバク転カエル。なのに、

これが立たない！立たない！立たない！立たない！

20回試みても立たなかったらダメですよ。5回連続でバク転できたら合格にしています。そんな優れ者がいるのに、それと見た目も仕掛けも全く同じなのにどこが違うんだろう？なんで立たないの？そんな思いで店の奥でひたすらカエルを審査する私。ひどい時は24個中10個が失格。なんと4割近くがダメなのです。ダメなやつは廃棄です。合格者のみを磨いて良いケースに入れて、おしゃれな名前シール貼ってます。黄色はバナナちゃん、水色はミルクちゃん、緑はまっちゃん（抹茶）ちゃん。お菓子用のラベルなのでね。一番人気は、まっちゃん！



まあ選ばれし者たちですから。見栄え良くパッケージングもしてあげてますし、普通の駄菓子屋さんよりは少々お高いかもしれませんが、ま、面白さへの値段段ということにして、中古なればこそお宝の価値も出てくるというかね……ご了解くださいね、ホッホッホ。と理論武装して、ちょっと稼いでいるわけです。

そんなある日、失格したカエルたちを廃棄しようとして、

なんとなくまた試したら……

なんと3匹が完璧に5回連続バク転成功したじゃないですか！

敗者復活！おめでとう！でもどういうこと？

捨てられたくないで夜中に必死に自主トレでもしたのでしょか？？？

おもちゃってきっと命がありますよ。だからちょっと不思議なことも

時々起こるんです。



鎌倉おもちゃ屋物語

くろすかずきよ

その2

面白駄玩具の紹介と
新米おもちゃ屋の
どたばたエッセイ!

アナトールカフェに置いてあるぬいぐるみ系は全部パペット、手を入れて動かす人形です。オーナーのひげだるま山川さんはお客さんが来るとそれを手にはめてセールストーク。

リアルな作りのそれらをまるで生きているように動かすのがこの道15年の山川さんの得意技。お客さんは一気に打ち解けて結構お高い商品なのに売れていきます。



新米の私はまだそんな度胸がなく、店の奥から眺めてニコニコ相づち打つばかり。学生や研修会の保育士さんにならもう40年以上平気で人形劇を演じてきたのですが、見たい、聞きたい、学びたいのがはっきりわかっている人ならいいけど、ただ店にふらっと入ってきた、目的も興味もわからない赤の他人にお人形持って話しかけるのって相当勇気がいるのですよ。

いろいろと言いつしながら店の奥で私がしているのは手作り商品の製作と駄玩具の検品。

そう、検品しなきゃいけないんです。



だろ私人見知りするタイプだしね...それに店員さんに近づいてこられるのっていやな人もいるんじゃないかな

文化



わざわざ大阪行くなんて交通にかかるでしょーか



よしもと
いや、あんなに見てかわない

こういう駄玩具の間屋は東京にあまり無いので私は大阪まで仕入れに行ってます。

間屋なので1個ずつではなくダース単位で大量に仕入れてくるのですが、駄玩具って時々おかしなものがまざってるんですよ。



前回紹介したヘビゴマでも、軸の先がさびていたり、中に仕込んだ磁石の接着剤が分厚くて磁力が弱く、ヘビがくっつかないのがある。ひどいのはヘビが入っていなかったりする!

これじゃあヘビゴマじゃないじゃん!子どもが自分のなけなしのお小遣いで買ったのがそれだったらかわいそうでしょ。だからやっぱり検品します、一つ一つ袋開けてね。その時点で中古品になるわけですけど、いたしかたない。衛生法とか安全法とかの検査はクリアして袋に明記されているのですが、それとは別の、おもちゃがちゃんと機能するかどうかの検査が十分されていない気がしますね。

黒須和清 1955年東京生まれ。横浜在住。
洗足こども短期大学教授として手作りおもちゃや人形劇を教えるかたわら、ペーパークラフトや執筆活動、研修会講師の仕事などで忙しい。